

令和 年 月 日 ( ) 校時 : ~  
( ) 学校 年 組 計 名  
指導者 ○○ ○○ ㊟

【年間指導計画 ( ) 学年 P ( ) 月計画】

1 学校で育てたい資質・能力

2 主題名 「 」

原則として年間指導計画における主題名と学級の実態を踏まえて記述する。  
・ねらいと教材で構成し、授業の内容が概観できるように端的に表したもの  
※道徳的価値と学級の実態を踏まえて明確に記入

(1) 内容項目「 」  
(2) 道徳的価値「 」

3 教材名 「 」

4 主題設定の理由

(1) ねらいとする道徳的価値について

ねらいとする道徳的価値について、学習指導要領に基づき、内容項目にある道徳的価値をできるだけ焦点化し、明確に考えを示す。  
・道徳科の授業で、子供たちの自らの生き方について考えを深めるために、欠かすことのできない指導の方向性  
・道徳科の授業で、子供たちにどのようなことを考えさせ、どのようなことに気付かせたいのかを明らかにする

(2) 児童（生徒）の実態

ねらいとする道徳的価値について、日頃どのような指導を行い、その結果としての子供たちにどのようなよさや課題があるのか確認した上で、本時で学ばせたいことを明らかにして示す。

(3) 教材について

授業者の明確な意図、子供の実態をもとに、教材をどのように活用し、どのような学習を行うのかを明らかにする。

5 本時の学習

(1) ねらい


道徳科の内容項目を基に、ねらいとする道徳的価値や道徳性の様相を端的に表す。  
※学習活動「～活動を通して」＋気づかせたいこと「～に気づき」＋道徳性の諸様相の3つの構造を一文で表す。  
(例) ○○の心や行動の変容について話し合う活動を通して、～を大切にすることにより、～の良さ（～こと）に気づき、～しようとする道徳的判断力を育てる。

(2) 授業の工夫

ねらいに迫る手立てや工夫した指導方法などを具体的に示す。  
(例) ○○○の場面において（場の設定）、○○○する（手立て、方法）

(3) 展開（例）

教材研究や授業展開に沿ってマイノートを活用し、検討する。

	学習活動	主な発問 ◎中心発問 ○補助発問	◇予想される児童(生徒)の反応	◇指導上の留意点 □評価
導入（一分）	内容項目への働きかけ (気づき・「問い」)  問題把握 (学びの方向性)	生活体験との関わりを基に気づきや「問い」を引き出す 子供の気づきや「問い」を引き出す手立てを工夫する。  本時で考えたいことを焦点化し、方向づける  主題に対する興味・関心を高め、主体的に主題に関わる意識を持たせる ○「○○」とはどのようなことですか。 ○なぜ「○○」は大切なのでしょう。 ○どうすれば○○が実現できるでしょうか。等	◇子供のもっている価値の概念を確認する。  ◇クラス全体で考えたい等、必然性を持たせる。	
展開（一分）	教材との対話 (範読)   自分との対話 (自己を見つめる)  他者との対話 (多面的・多角的な考え)	教材を基に自分事として受け止めさせる 教材に描かれている道徳的価値にふれさせる ○お話の中に「○○」はありましたか。 ○何と何で迷っていますか。等  中心発問・補助発問を基に自分の考えを整理する時間を確保する 子供の実態と教材の特質をおさえ、ねらいの根底にある道徳的価値の理解を基に自己を見つめさせる ○もし、自分が○○ならどうしますか。 ○なぜ、自分はそのように行動するのでしょうか。等  自己の考えを他者と交流する場面を設定する 道徳的価値に対する感じ方や考え方を生かし、他者との対話を行いながら、物事を多面的・多角的に考えられるようにする。 ◎主人公はどういう思いを持って～～という判断をしたのでしょうか。 ◎～の行動や心を変えたものは何でしょうか。等  新たに生まれた「問い」や問い返しにより、自分の考えを再整理させる 多面的・多角的に考えたことにより生じた疑問や問い返し等を生かし改めて考えさせ、感じ方や考え方を深めさせる。 ○本当の「○○」ってどのようなものだろう。等  多面的・多角的な見方へと発展した自己の考えで、他者と再交流させる 新たに気付いたことや問題などから、自己や人としての生き方について考えを深めたり、交流したり議論したり、整理したりしながら、主題が明瞭になるようにする。 ○～～するのに大切なものはなんだと思いますか。等	◇自分の価値観と照らし合わせる。 ◇迷いや葛藤を大切に にする。  ◇自分の考えを整理する時間を確保する。  □自分自身との関わりで考えている。  ◇状況を見て、ペア、グループトークを設定する。 ◇多様な意見を引き出す ◇一人一人に自分の感じ方や考え方を伸び伸びと表現させる。  □多面的・多角的に考えている。  □新に生まれた「問い」や問い返しにより、自分の考えを再整理している。	
終末（一分）	振り返り (自己の考えを深める)  振り返りの共有 (新たな「問い」)	内容項目について学んだことを整理させる ねらいの根底にある道徳的価値に対する思いや考えをまとめたり、道徳的価値を実現することの難しさなどを確認したりして、今後の学びにつなげる。 ○～～についてどう考えますか。等  自分の考えを深めさせ、新たな「問い」につなげる 子供たち一人一人が感じ、考え、整理したことを共有させ、互いを認め、励まし、それぞれの成長を実感させるようにする。 ○自分の生活に生かせそうなのは何ですか。 ○これからもっと考えたいことは何ですか。等	◇子供の発言を活用して振り返る。 ◇多様な意見を拾い共有する。  □現在の自分の在り方やこれからの生き方を積極的に考えている。	

※問題解決的な学習や自我関与、体験的な活動など様々な指導方法を組み合わせましょう。→『問いサボ』P31

6 評価

(1) 視点（児童生徒の評価）

学習活動において児童生徒がより多面的・多角的な見方へと発展していたか。道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めていたか。

- ・学習過程の中で期待する子どもの姿（児童生徒の学習活動に着目する）を記述する。

(2) 観点（教師の振り返り）

- ・発問の工夫はできていたか。
- ・板書の構成は適切であったか。
- ・指導方法は学級の実態にふさわしいものであったか。等

7 他の教育活動等との関連（別葉参照）

他の教育活動との関連、保護者や地域の人々の参加や協力など、日常の学級経営においてどのような配慮がなされるのかなどを示す。

8 板書計画

（写真も可。項目だけでなく、実際に板書することを書く。ICT機器の活用等についても記載）

※ 指導案の提出にあたっては、教材文を添付すること。